

# 多様な言語的背景を包摂する 公立中学校国語科の授業

—英語科との「連携」からつくる「取り出しの学び」との接続面—

下村 京子（長野県上田市立丸子北中学校）

○通常（在籍）学級担当教員の直面している「課題」

「全ての分野の専門的知識を理解しなければならない」ということ



国語教員が、  
「言語学」という視点から自分たちの専門性を見つめ直せば良いのではないか？

国語科・外国語(英語)科 連携にかかわって 学習指導要領(H29 告示)から

	中学校国語科	中学校外国語科
目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
知識及び技能	(1)社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。	(1)外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	(2)社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。	(2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
学びに向かう力・人間性	(3)言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、わが国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。	(3)外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
	<p>第4章 指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>1 指導計画作成上の配慮事項</p> <p>○他教科等との関連についての配慮事項</p> <p>(7)言語能力の向上を図る観点から、<b>外国語科など他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにすること。</b></p> <p>→言語能力は、全ての教科等における学習の基盤となる資質・能力である。このため、第1章総則の第3の1(2)において、「言語能力の育成を図るため、各学校において必要な言語環境を整えるとともに、<b>国語科を要としつつ各教科等の特質に応じて、生徒の言語活動を充実すること。</b>」とされているとおり、<b>言語能力の育成に向けて、国語科が中心的な役割を担いながら、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図ることが重要である。</b></p>	<p>第2章 外国語科の目標及び内容</p> <p>3 指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>(1)指導計画の作成上の配慮事項</p> <p>オ 言語活動で扱う題材は、生徒の興味・関心に合ったものとし、<b>国語科</b>や理科、音楽科など、他の教科等で学習したことを活用したり、学校行事で扱う内容と関連付けたりするなどの工夫をすること。</p> <p>→<b>例えば国語科との連携については、「相手の反応を踏まえながら、自分の考えを分かりやすく伝えるように表現を工夫すること」や「話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめること」といったことを国語科で学習し、外国語科でのスピーチやグループでの話し合い、読んだことを基にした意見交換などの活動に生かすことが考えられる。</b></p>

【学習目標】(教科書から)

- 作品の特徴を生かして朗読し、古典の世界に親しむ。
- 登場人物の言動の意味を考え、そこに表れたものの見方や考え方を捉える。

【指導要領との関連】

- 知識・技能 言語文化>古典  
 思考・判断・表現 登場人物の言動の意味  
 [知識及び技能]  
 (2) 我が国の言語文化に関する事項  
 伝統的な言語文化  
 ア 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむこと  
 イ 現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を  
 [思考力・判断力・表現力等]  
 C 読むこと  
 精査・解釈  
 イ 目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考  
 りして、内容を解釈すること。

○英語(外国語)科・他教科との連携・展開に関わって

	(小)第3学年及び4学年	(小)第5学年及び6学年	(中)第1学年	(中)第2学年
国語科	古典 ア 易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	古典 ア 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語長の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 イ 古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。	古典 ア 音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむこと。 イ 古典には様々な種類の作品があることを知る。	古典 伝統的な言語文化 ア 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむこと イ 現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を 国語科目標 (3)言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の工場を図る態度を養う。
			読むこと 精査・解釈 ウ 目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈すること。	読むこと 精査・解釈 イ 目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考 えたりして、内容を解釈すること。
英語科	(1)英語の特徴等に関する事項 実際に英語を用いた言語活動をを通して、次の事項を体験的に身に付けることができる イ 日本と外国の言語や文化について理解すること (ア)英語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本	読むこと ア活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音できるようにする。 イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。	読むこと ア 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるようにする。 イ 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする。	外国語科目標 (3)外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

【学習目標】(教科書から)

- 人間と人工知能との関わりについて述べた二つの文章を読み、自分の考えをまとめよう。

【指導要領との関連】

- 知識・技能 情報の信頼性  
 思考・判断・表現 批判的に読む 自分の考えを深める  
 [知識及び技能]  
 (2) 情報の扱い方に関する事項  
 情報と情報との関係  
 ア 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めること  
 イ 情報の信頼性の確かめ方を理解し使うこと  
 [思考力・判断力・表現力等]  
 C 読むこと  
 精査・解釈  
 イ 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えること。  
 考えの形成  
 エ 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと。

○英語(外国語)科・他教科との関連・展開に関わって

	(小)第3学年及び4学年	(中)第2学年	(中)第3学年	高等学校
国語科	ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること。	読むこと 精査・解釈 イ 目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考 えたりして、内容を解釈すること。	読むこと 精査・解釈 イ 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考 えたりして、内容を解釈すること。	論理国語 読むこと 精査・解釈 イ 目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めること。
			考えの形成 エ 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと。	
		ア 報告や解説などの文章を読み、理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする活動	ア 論説や報道などの文章を比較するなどして読み、理解したことや考えたことについて討 論したり文章にまとめたりする活動。	
英語科				英語コミュニケーションⅢ 読むこと (イ) 社会的な話題について、複数の論証文や記録文などから文章の展開に注意しながら課題を解決するために必要な情報を読み取り、概要や